

日本における保健体育科教員養成課程の学生が有する 「ベースボール型授業観」の様態に関する事例調査 —体育授業観との比較を手掛かりに—

福田健太郎

阿部直紀

松本佑介

広島大学附属福山中・高等学校

福山平成大学

広島大学

概要：本研究の目的は、保健体育科教員養成課程の学生が有する「ベースボール型授業観」の様態について、体育授業観との比較を手掛かりに明らかにすることであった。X 大学保健体育科教員養成課程の 1 年生 62 名を対象にアンケート調査を実施した。アンケート調査で得られた自由記述についてカテゴリーアナリシスを行い、〈コード〉、《サブカテゴリ》、【カテゴリ】を生成した。分析の結果、体育授業観と比較して、ベースボール型授業観では【実戦を重視した授業】や《協力》に関する記述が多いことが相違点としてみられた。その要因として、①ベースボール型は戦術的構造が複雑であり、実戦形式の授業が戦術理解を深めるために効果的であること、②攻守双方の技能向上をめざすベースボール型の授業では、チーム内での協力が学習効果を高めることが挙げられた。

キーワード：保健体育科、ベースボール型、授業観

A case study on the state of “Baseball-Type View of Teaching” held by students in health and physical education teacher training programs —A comparison with the view of physical education teaching—

Kentaro FUKUDA

Hiroshima University

High School, Fukuyama

Naonori ABE

Fukuyama Heisei University

Yusuke MATSUMOTO

Hiroshima University

Abstract: The purpose of this study was to clarify the characteristics of students' “Baseball-Type View of Teaching” held by students enrolled in a teacher training program for health and physical education, using a comparison with their general perspectives on physical education classes as a point of reference. A questionnaire survey was conducted with 62 first-year students in the health and physical education teacher training program at X University. A categorical analysis was conducted on the students' open-ended responses, through which **【codes】**, **《subcategories》**, and **【categories】** were generated. The analysis revealed that a notable difference was that in baseball-type view of teaching, there were more responses related to **【lessons emphasizing actual gameplay】** and **《cooperation》** compared to general physical education lesson views. Two possible reasons for this are: (1) the tactical structure of baseball-type games is complex, and lesson formats based on actual gameplay are effective in deepening students' tactical understanding; and (2) in baseball-type lessons aimed at improving both offensive and defensive skills, cooperation within the team enhances learning outcomes.

Keywords: Health and Physical Education, Baseball-Type, Views on Teaching

1. 緒言

社会の複雑化や多様性が急速に進んでいることから、昨今の学校現場では、教師の力量形成についてそのあり方を模索することが喫緊の課題となっている（高見ほか、2023）。高橋（2024）によると、教師の力量に関する不安や心配を抱える若手教師¹が多数存在すると指摘されている。また、中妻（2021）は、教師の大量退職・大量採用、年齢構成の不均衡、多様な教育課題への対応・多忙化等によって、先輩教師から若手教師への知識・指導技術等の継承が困難であると述べている。このことは、若手教師の力量形成が円滑に進んでいない現状を示唆している（中妻、2021）。この力量不足が、若手教師の悩みの1つとして挙げられ、ストレスの要因となっている（高木、2022；和井田、2015）。ストレスは、若手教師の離職願望を昂進させ、離職率の増加に影響を及ぼしている（塚本、2021；小橋、2013）。以上のように、日本における教育現場では、若手教師の力量不足に関する問題がしばしば話題となる。

上記の課題解決に向けて、中央教育審議会（2015）は、教員養成課程において力量のある教師の養成について示している。特に、授業実践に関する教師の力量形成が求められている（稻本・宮本、2023）。「教師の力量を測る上で最も有効な場面は、授業実践場面である」（大山・森川、2024、p.37）との指摘もあることから、教師の力量を向上させるために、授業実践に着目することは意義深いといえるだろう。

この授業力に影響を及ぼすものとして、授業観²が挙げられる。教師の保持する個人的な授業に対する考え方からなる授業観が、教師の授業実践に影響を及ぼすことが明らかとなっている（Calderhead、1996）。また、石上（2006）によれば、授業設計及び授業実践には、教師の保持する授業観が影響を及ぼすと論じられている。さらに、授業観は、教員養成課程において形成されると指摘されている（嘉数・岩田、2013）。加えて、江藤（2019）によると、教員養成課程における教科の指導法に関する講義を通して、学生の授業観は形成されると述べられている。したがって、授業観について検討するうえで、教員養成課程に着目することは有意義であるといえる。他方、実際の学校現場に目を向けると、運動嫌いの子どもの存在や運動習慣の二極化傾向が問題となっている（徳重・柴崎、2023）。また、子どもの体力水準の長期的な低下傾向が問題視されている（山下ほか、2014）。さらに、体力水準には性差も見受けられると指摘されている（Ishii et al., 2015）。上記のような問題を改善するためには、体育授業が大きな役割を担っている（古田、2018；鈴木、2009）。そのため、授業観の中でも、体育授業観は注目するに値すると考えられる。

以上のような背景から、教員養成課程における体育授業観に関する研究が蓄積されてきた。嘉数（2012）は、保健体育科教員養成課程の大学生（以下「学生」と略す）が有する体育授業観を調査した。その結果、学生が保持する体育授業観は、【生徒を動機づける授業】、【雰囲気の良い授業】、【理想的な授業】の3つの因子から構成されることが示された。また、住本（2016）は、小学校教員養成課程の大学生が保持する体育授業観の様態を明らかにした。その結果、学生の体育授業観は、【体育授業の目標に関すること】、【体育授業の情意面に関すること】、【体育授業の安全面に関すること】の3つに大別されることが示唆された。さらに、王ほか（2023）は、教育大学に所属する1年生と4年生を対象に、体育授業観の実態と変容を検討した。その結果、【生徒を動機づける授業】、

¹ 木原（2004）が示す教職区分に則り、教職歴5年未満の教師を「若手教師」と表記した。

² 授業観の類義語として指導観があるが、体育科教育学分野においては、両者が混在して使用されている（成家ほか、2018）。そこで本研究では、両者を授業観で統一して表記した。

【理想的な授業】の2因子において4年生の方が1年生に比べて有意に低いことが示された。他にも、保健体育科教育実習生の体育授業観が教育実習を経てどのように変容するのか調査した嘉数・岩田（2013）の研究や、教員養成課程における教科の指導法を通した体育授業観の変容について検討した江藤（2019）の研究などもあり、学生の体育授業観に関する先行研究は一定の拡がりをみせている。そして、教員養成課程の学生が持つ体育授業観は、学生の授業実践と関連すると指摘されている（嘉数、2012）。したがって、教師をめざす学生の体育授業観を調査することは、教員養成課程の指導内容を見直すうえで肝要であると考えられる。

一方で、これらの教員養成課程における体育授業観に関する先行研究の多くは、体育全体の授業観に焦点を当てており、個別の運動領域に着目した授業観の研究は、まだ緒に就いた段階にあるといえる。運動領域ごとの授業観に着目した研究としては、松本ほか（2024）による陸上競技に関する授業観の調査が挙げられるが、他の運動領域との比較は行われておらず、今後の課題として残されている。保健体育科における運動領域は、運動の内容や特異性に応じて、体つくり運動、器械運動、陸上競技、水泳、球技、武道、ダンス、体育理論の8領域に分類される（文部科学省、2018、2019）。これらの運動領域の違いにより、授業観にも領域特有の傾向がみられる可能性がある。中でも、球技はさらに、ゴール型、ネット型、ベースボール型に分類される。とりわけ、ベースボール型は、他の型と比べて扱う種目が少なく、使用できる道具やスペース等の制限によって授業での実施に困難を伴う場合が多いと指摘されている（大田ほか、2022）。また、大室ほか（2021）によると、ベースボール型においては、経験者と未経験者の技能差が大きく、これが体育授業での扱いにくさの一因となっている。以上を踏まえると、学生の中にはベースボール型の指導に自信を持てない者も少なくないと考えられる。このような状況において、学生が考える「良いベースボール型の授業」（以下「ベースボール型授業観」と略す）を明らかにすることは、単にベースボール型特有の指導上の課題を把握することにとどまらず、技能差の大きい学習集団への対応や、道具やスペース等の制約条件の中で学習を成立させるための留意点を明確化することにつながると思われる。これらは、ベースボール型に限らず、他の球技や、技能差および経験差が顕在化しやすい体育授業全般に共通する課題である（荻原、2020）。したがって、学生の「ベースボール型授業観」を明らかにすることは、教員養成課程における体育授業全体の指導力育成に資する有益な知見を提供するものと期待される。そして、ベースボール型授業観の様態を把握する際には、既存の体育授業観と比較することで、その特性や独自性をより明確にすることができると考えられる。

そこで本研究では、学生が有するベースボール型授業観の様態について、体育授業観との比較を手掛かりに明らかにすることを目的とした。

2. 研究の方法

2.1. 調査期間及び調査対象者

調査期間は、2024年10月から11月であった。調査対象者は、X大学保健体育科教員養成課程の大学1年生62名とした。そのうち、ベースボール型を専門種目とする学生は5名であった（野球3名、ソフトボール2名）。学生の持つ体育授業観は、模擬授業や教育実習の経験を通じて、変容する可能性がある（江藤、2019；嘉数・岩田、2013）。そのため、大学1年生時のベースボール型授業観を明らかにすることは、今後の教員養成課程で必要な指導方法を検討するうえで重要な手がかりになると考えられる。したが

って、大学1年生を調査対象者に設定した。

2.2. 調査方法及び調査内容

調査方法として、アンケート調査を用いた。アンケートを収集する際、質問項目の内容に限定されない多様な意見や考えを引き出すため、回答は自由記述とした(松河ほか、2017)。また、調査内容として、陸上競技授業観について調査した松本ほか(2024)を参考に、表1のように設定した。

表1 アンケート調査の内容

-
- ① 良いベースボール型の授業とはどのような授業だと考えますか。
 - ② そのように考える理由を記述してください。
 - ③ 良い体育授業とはどのような授業だと考えますか。
 - ④ そのように考える理由を記述してください。
-

2.3. 分析の手続き

分析方法としては、一見無秩序にみえる定性的データを帰納的にグループ分けすることにより、新しい発想を得ることのできるカテゴリー分析(大谷、2019)を援用した。まず、自由記述で得られたデータをコーディングしてコードとして位置付けた。次に、各コードの類似性に着目し、複数のコードを包括するサブカテゴリーを生成した。また、同様の手順でサブカテゴリーの上位に位置するカテゴリーを生成した。その後、ベースボール型授業観として生成されたものと、体育授業観として生成されたものに分類したのち、それぞれのカテゴリーの比率を算出した。なお、松本ほか(2024)に則り、回答理由に関する項目については、各授業観の解釈及びコード化、考察に用いることとした。また、コード化の際には、分析の一貫性及び信頼性を確保するため、再テスト法(土屋、2016)を用いて1ヶ月後に再コーディングを実施した。さらに、研究者の個性から生じるデータの歪みを避けるため、複数の調査者を分析に参加させる「調査者のトライアングュレーション」(フリック、2002、p.282)を行った。具体的には、筆頭著者に加え、体育科教育学及び教師教育学を専門とする大学教員2名の共同で分析を実施した。以上の手続きにより、分析の内容的妥当性を担保できるように努めた。

2.4. 倫理的配慮

データ収集の際、本研究の目的、研究への参加は自由であること、回答については本研究以外の目的には使用しないこと等を口頭及び書面で説明し、同意を得た。そして、同意を得られた回答のみ、分析の対象とした。なお、本研究は、広島大学大学院人間社会科学研究科における研究倫理審査委員会の承認を得て実施された(承認番号: HR-ES-002246)。

3. 結果

ベースボール型授業観及び体育授業観に関する自由記述から生成されたカテゴリーを【】、サブカテゴリーを《》、コードを〈〉で表記した。生成されたコードの総数は135であり、そのうちベースボール型授業観に関する記述から生成されたコードが66、体育授業観に関する記述から生成されたコードが69であった(表2)。カテゴリー分析

においては、分析過程を明確に提示すること自体が、研究の信頼性および再現性を担保する重要な根拠となる (Bohm & Sundqvist, 2025)。そのため、単一のコードであっても、カテゴリー分析の結果として明示することが望ましいとされている (Bohm & Sundqvist, 2025)。以上を踏まえ、本研究では、各コードの出現数が少數である場合についても、分析結果として抽出した。

表2 カテゴリー分析の結果

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	ベースボール型授業観 (個)			体育授業観 (個)		
			カテゴリー	サブカテゴリー	コード	カテゴリー	サブカテゴリー	コード
情意面		誰もが楽しめる授業			15			6
		楽しいと思える授業			6			15
		楽しく学べる授業			2			1
		友達と楽しみながら学べる授業			1			0
		苦手な人でも楽しめる授業	26	1		25	1	
		未経験者でも楽しめる授業			1			0
		面白くて楽しい授業			0			1
		生徒が満足できる授業			0			1
		生徒が連携を取れる授業			5			0
		団結力のある授業			2			0
居心地の良い授業	協力	みんなが声かけできる授業	36	8	1	39	4	0
		協力できる授業			0			2
		協調性を学べる授業			0			1
		仲良くできる授業			0			1
		全員が全力でできる授業			1			1
全力		とても良い雰囲気の授業			1			1
		全員が参加できる授業			0			3
		運動の得意不得意に関わらず参加しやすい授業			0			1
		教師も参加する授業			0			1
		積極的に参加できる授業			0			1
合意形成		生徒同士が意見を言い合える授業			0			2
		試合形式の授業			4			2
		基礎を踏まえた試合形式の授業			1			0
		全員が打てるような工夫を施した試合のある授業			6			2
		ゲーム型の授業			1			0
実戦を重視した授業	ゲーム	技能差に左右されないゲームがある授業			11			3
		参加する生徒が理解できるゲーム形式の授業			4			1
		誰もが公平に実戦できる授業			1			0
		初心者でも簡単にできる授業			1			0
		簡単なベースボール型の授業			2			0
難易度		誰もが打てて取れる授業			4			1
		生徒の実態に合わせて難易度を変更する授業			1			0
		キックベースの授業			1			0
		ソフトボールの授業			1			0
		フットボールの授業			1			0
授業内容に留意した授業	ルール	オリジナルのルールを導入した授業			11			8
		分かりやすいルールの授業			3			0
		怪我のない授業			1			0
		経験者と未経験者を分ける授業			1			0
		班分け			1			5

生徒への配慮	得意不得意で活動を分けた授業	0		1	
	生徒に無理をさせない授業	0	0	1	1
技能面	技能を向上できる授業	2		2	
	打つ・投げる・走る	1		0	
	動作がある授業	1		4	
	技術を習得できる授業	5	1	8	0
	知識だけでなく実技のある授業	1		1	
	体力が向上する授業	0		1	
	学んだことを活かして実践できる授業	0		1	
学習指導要領の目標に関連した授業	生徒が意欲的に取り組む授業	1		3	
	全員が積極的に参加できる授業	8	2	19	8
	真剣に取り組む授業	0		1	
	生徒が静かに先生の話を聞く授業	0		1	
	基本的な知識を学べる授業	1		0	
	運動の楽しさを理解できる授業	1	0	3	1
	体を動かす楽しさを知ることができる授業	0		1	
知識面	ルールを理解できる授業	0		1	

4. 考察

学生は双方の授業観において、【居心地の良い授業】を重視していることが明らかとなった。特に、《情意面》における〈誰もが楽しめる授業〉と〈楽しいと思える授業〉に関する回答が多かった。回答理由の中には、「楽しめた方が積極的に授業に取り組めると思うから」、「みんなが楽しめた方が盛り上がるから」という記述がみられた。立木（2013）によれば、全ての学習者が、その運動固有の魅力や楽しさを味わい、興味・関心や意欲を喚起する体育授業の実現が求められる。よって、学生が今後保健体育科教師になり得ることを踏まえると、「楽しさ」に重点を置いた双方の授業観を有していることは、好ましい傾向であると考えられる。

相違点に着目すると、体育授業観では〈全員が参加できる授業〉や〈運動の得意不得意に関わらず参加しやすい授業〉といった項目がみられ、《参加》のしやすさに重点が置かれている。一方、ベースボール型授業観では〈団結力のある授業〉や〈生徒が連携を取れる授業〉といった《協力》に関する項目が多く、チームワークや協力の重要性が強調されている。嘉数（2012）、王ほか（2023）の報告では、学生が有する体育授業観の様態として、《協力》に関する内容はみられなかった。つまり、《協力》についての記述が多かったことは、ベースボール型授業観の特徴であるといえる。ベースボール型授業観の回答理由には、「コミュニケーションが大事だから」、「チームワークが大事だから」等が含まれた。赤津ほか（2022）は、攻守双方の技能向上をめざすベースボール型の授業では、チーム内での協力が学習効果を高めると述べている。したがって、学生は被教育体験期に《協力》によって学習効果が高まることを実感した結果、《協力》を重視したベースボール型授業観を有している可能性がある。

また、体育授業観では《技能面》や《態度面》の割合が高く、学生は学習指導要領の目標に依拠する意識が高いことが窺える。一方、ベースボール型授業観では《試合》や《ゲーム》の【実戦を重視した授業】に関する記述が特筆されていた。学生が持つ「陸上競技授業観」について検討した松本ほか（2024）によれば、「陸上競技授業観」に実戦を重視する記述は含まれなかった。このことから、【実戦を重視した授業】に関する記述

の割合が多いことは、ベースボール型授業観の特徴であると考えられる。ベースボール型授業観の回答理由を参照すると、「試合をすることで実際の動きなどを確認できるから」、「試合を通していろいろな能力が身につくから」という記述が見受けられた。蛯原（2020）によれば、ベースボール型は戦術的構造が複雑であり、実戦形式の授業が戦術理解を深めるために効果的であるとされている。そのため、ベースボール型の授業における学習者の内容理解に向け、学生は《試合》や《ゲーム》に重点を置いたベースボール型授業観を保持していると捉えられよう。

以上のように、保健体育科教員養成課程の学生は、《協力》や《試合》、《ゲーム》を重視したベースボール型授業観を有している可能性が示唆された。一方で、ベースボール型のゲームを成立させるためには、「投げる」、「捕る」、「打つ」、「走塁する」などの基本的な技能を教師が系統的に指導することが不可欠であると指摘されている（三輪、2017）。また、中垣・岡出（2009）によると、技能レベルの低い生徒は、ボール操作への関与が消極的になる傾向があるとされている。さらに、ベースボール型のゲームは、ボールの捕球や送球といった技能に加え、ゲーム中の判断が困難であると指摘されている（宮内ほか、2001）。上記を整理すると、生徒がベースボール型のゲームを楽しむためには、「投げる」、「打つ」などの基本的な技能を向上させることのできる授業の工夫が必要であると考えられる。したがって、保健体育科教員養成課程において、ベースボール型の技能指導に関する内容を一層充実させ、学生のベースボール型の技能に関する指導力を向上させることが重要であると思われる。

5. 本研究のまとめ及び課題

本研究の目的は、保健体育科教員養成課程の学生が有するベースボール型授業観の様態について、体育授業観との比較を手掛かりに明らかにすることであった。X大学保健体育科教員養成課程の1年生62名を対象にアンケート調査を実施した。アンケート項目は、「良いベースボール型の授業とはどのような授業だと考えますか」、「そのように考える理由を記述してください」等で構成された。アンケート調査で得られた自由記述についてカテゴリ分析を行い、〈コード〉、《サブカテゴリ》、【カテゴリ】を生成した。分析の結果、ベースボール型授業観と体育授業観の共通点としては、〈誰もが楽しめる授業〉や〈楽しいと思える授業〉等の【居心地の良い授業】が重視されていることが挙げられた。また、体育授業観では《参加》のしやすさや《技能面》に関する記述が多く、ベースボール型授業観では【実戦を重視した授業】や《協力》に関する記述が多いことが相違点としてみられた。以上のことから、保健体育科教員養成課程の学生は、チームワークと実戦を重視するベースボール型授業観を有している可能性があると示唆された。

本研究の結果から、上記の知見を得られた一方で、課題も残された。まず、本研究は調査対象者が限られた事例研究であった。したがって、学生が有するベースボール型授業観をより詳細に検討するために、さらなる事例の蓄積が求められよう。次に、本研究では、ベースボール型以外の運動種目に関する授業観との比較まではなされていない。保健体育科におけるより良い教員養成を実施するためにも、それぞれの運動種目の授業観を探ることは肝要であろう。加えて、本研究における調査対象者は大学1年生であった。授業観は変容する可能性があるため（江藤、2019；嘉数・岩田、2013）、今後は2年生以降でも調査を実施することが求められるだろう。以上は今後の課題とする。

参考文献

- 1] 赤津健太郎・吉野聰・渡邊將司・大津展子 2022 「攻守双方の技能向上を目指したベースボール型の授業づくり」『茨城大学教育実践研究』41号, pp.1-19。
- 2] Bohm, I. & Sundqvist, J. 2025 「Qualitative content analysis: A step-by-step guide for beginners to the method, theories, epistemology, ontology, and rigour」『The Qualitative Report』30卷9号, pp.4236-4263。
- 3] Calderhead, J. 1996『Teachers: Beliefs and knowledge』, In D.C.Berliner and R.C.Calfee (Eds), *Handbook of educational psychology*, pp.709-725。
- 4] 中央教育審議会 2015 『これからの中学校教育を担う教員の資質能力の向上について－学び合い、高め合う教員養成コミュニティの構築に向けて－（答申）』。
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf, (参照日 2024年10月22)。
- 5] 蛭原正貴 2020 「国内の体育授業における戦術学習研究の系統的レビュー」『長崎女子短期大学紀要』45号, pp.112-122。
- 6] 江藤真生子 2019 「小学校体育授業の指導観の変容に関する事例研究－養成段階の学生を対象とした教科の指導法に関する講義に着目して－」『日本教科教育学会誌』42卷3号, pp.83-94。
- 7] フリック：小田博志・山本則子・春日常・宮地尚子訳 2002 『質的研究入門－〈人間の科学〉のための方法論－』, 春秋社。
- 8] 古田久 2018 「運動嫌いと運動不振の関係」『日本教科教育学会誌』40卷4号, pp.63-69。
- 9] 稲本多加志・宮本浩治 2023 「学校を基盤としたカリキュラム開発を担う教師の役割と力量形成についての実践的研究－実践的リーダーとなる教師の主体から－」『岡山大学教師教育開発センター紀要』13卷, pp.115-128。
- 10] 石上靖芳 2006 「教師の授業設計と授業観に関する一考察－熟練教師の授業設計の事例を手がかりとして－」『静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』12卷, pp.201-221。
- 11] Ishii, K., Shibata, A., Adachi, M., Nonoue, K. & Oka, K. 2015 「Gender and grade differences in objectively measured physical activity and sedentary behavior patterns among Japanese children and adolescents: a cross-sectional study」『BMC Public Health』15卷, pp.1-9。
- 12] 嘉数健悟 2012 「体育教師志望学生の体育授業観に関する事例研究－因子構造と学年間の差異－」『広島大学大学院教育学研究科紀要第二部』61号, pp.291-297。
- 13] 嘉数健悟・岩田昌太郎 2013 「教員養成段階における体育授業観の変容に関する研究－教育実習の前後に着目して－」『体育科教育学研究』29卷1号, pp.35-47。
- 14] 木原俊行 2004 『授業研究と教師の成長』, 日本文教出版。
- 15] 小橋繁男 2013 「小中学校教師のストレスとバーンアウト、離職意思との関係」『日本保健科学学会誌』15卷4号, pp.240-259。
- 16] 松河秀哉・大山牧子・根岸千悠・新居佳子・岩崎千晶・堀田博史 2017 「トピックモデルを用いた授業評価アンケートの自由記述の分析」『日本教育工学会論文誌』41卷3号, pp.233-244。
- 17] 松本佑介・齋藤壮馬・北村優弥・石飛朱萌・福田健太郎 2024 「保健体育科教員養成課程の大学生が有する陸上競技授業観の実態に関する事例研究－体育授業観との比較から－」『大阪成蹊大学紀要』10号, pp.91-98。
- 18] 三輪佳見・野邊麻衣子・高橋武大・西田英司・高橋祥朗・馴松郁美・日高正博 2017 「小学校体育で育成すべきベースボール型ゲームの技能について－中学校との連携による目標設定と授業改善－」『宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター研究紀要』25号, pp.105-117。
- 19] 宮内孝・河野典子・岩田靖 2001 「小学校中学年ベースボール型ゲームの実践－ゲームの面白さと子どもの関わり合いを求めて－」『体育科教育』49卷3号, pp.52-55。

- 20] 文部科学省 2018 『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説保健体育編』、東山書房。
- 21] 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説保健体育編体育編』、東山書房。
- 22] 中垣貴裕・岡出美則 2009 「中学校におけるベースボール型ゲームの守備のゲームパフォーマンスに関する評価基準の事例的検討」『スポーツ教育学研究』29 卷 1 号、pp.29-39。
- 23] 中妻佳代 2021 「若手教員の教師力向上に関する取組の開発と実践」『鳴門教育大学学校教育研究紀要』35 卷、pp.205-213。
- 24] 成家篤史・鈴木直樹・石塚論 2018 「体育の指導観形成における組織内の教師間の関係性に関する研究－小学校教師に着目して－」『体育科教育学研究』34 卷 1 号、pp.1-16。
- 25] 荻原朋子 2020 「「技能差」問題を解決する仲間学習モデルの可能性」『体育科教育学研究』36 卷 2 号、pp.21-25。
- 26] 王建国・谷尾康太・上原禎弘 2023 「教員養成段階における体育授業観に関する研究－教育大学を事例に－」『兵庫教育大学学校教育学研究』36 卷、pp.149-154。
- 27] 大室康平・樋口貴俊・彼末一之 2021 「ベースボール型球技未経験者のバットスイングの再現性－素振りとティーバッティングの比較－」『スポーツ科学研究』18 卷、pp.85-96。
- 28] 大田穂・小出真奈美・岩間圭祐・鈴木由香・木塚朝博 2022 「小学校体育におけるベースボール型授業の実施状況とその課題」『体育科教育学研究』38 卷 2 号、pp.13-25。
- 29] 大谷尚 2019 『質的研究の考え方－研究方法論から SCAT による分析まで－』、名古屋大学出版会。
- 30] 大山摩希子・森川樹奈 2024 「国語科授業における教師の発話の特徴分析－学年固定の方法に着目して－」『関西福祉大学研究紀要』27 卷、pp.37-46。
- 31] 白石智也・房野真也・森木吾郎・高田康史・前田一篤・松本佑介・藤島廉 2020 「保健体育科教員養成課程入学者の体育学習観に関する調査研究－教職志望度の差異に着目して－」『人間健康学研究』3 卷、pp.51-57。
- 32] 住本純 2016 「小学校教員養成段階における体育授業観の様態－短期大学児童教育学科を事例に－」『夙川学院短期大学研究紀要』43 卷 43 号、pp.18-26。
- 33] 鈴木宏哉 2009 「どんな運動経験が生涯を通じた運動習慣獲得に必要か？－成人期以前の運動経験が成人後の運動習慣に及ぼす影響－」『発育発達研究』41 号、pp.1-9。
- 34] 高木幸子 2022 「教職生活を通して学ぶ教員の課題の分析」『新潟大学教育学部研究紀要人文・社会科学編』14 卷 2 号、pp.295-303。
- 35] 高橋洋一 2024 「教師の力量に関する不安や心配の軽減を目指した同僚性の向上－学校全体に高め合う関係性を醸成するための取組－」『教育デザイン研究』15 卷 3 号、p.68。
- 36] 高見悠佑・竹内孝文・近藤智靖 2023 「体育授業における授業観に関する研究－教員養成段階の大学院生を事例にして－」『第 73 回日本体育・スポーツ・健康学会予稿集』、p.582。
- 37] 徳重月音・柴崎直人 2023 「「運動嫌い」を克服するための多様な関与視点を取り入れた小学校体育授業の開発実践－「知る」ことを基盤とした「する・みる・ささえる」の視点による単元指導計画の作成を通して－」『岐阜大学教職大学院紀要』6 卷、pp.21-30。
- 38] 土屋雅子 2016 『テーマティック・アナリシス法－インタビューデータ分析のためのコーディングの基礎－』、ナカニシヤ出版。
- 39] 立木正 2013 『授業改善を図る体育科授業研究』『日本教科教育学会誌』35 卷 4 号、pp.99-103。
- 40] 塚本伸一 2021 「小中学校教師のバーンアウトと教師ストレッサー、離職願望の関連」『産業ストレス研究』28 卷 2 号、pp.263-274。
- 41] 和井田節子 2015 「若い教師の現状が教師教育研究に提起するもの」『日本教師教育学会年報』

24巻, pp.42-50。

42] 山下玲香・石川恭・都築繁幸 2014 「体力向上の取り組みの実践からみた子どもの体力低下に関する一考察」『教科開発学論集』2号, pp.185-191。